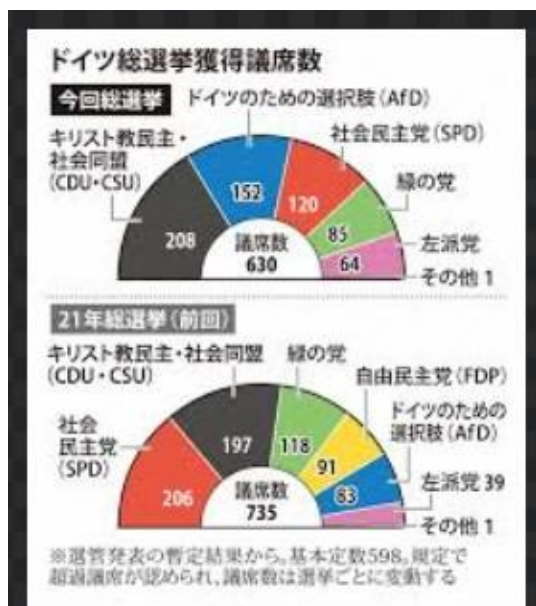


ドイツの総選挙（593号）

2025年 2月 石館

2月23日ドイツで総選挙が行われた。今回の選挙は経済問題より移民問題が焦点となった。最大野党の保守陣営が唱えた移民の流入制限策に排外的な主張を掲げる極右政党が同調し、与党や国民から“タブー破りの協力だ”との批判が噴出した。



総選挙の事前予測では CDU・CSU が第一党になり、次いで極右の AfD が第 2 党、与党 SPD は第 3 党になるとのことであったが、結果は予測通りであった。

CDU・CSU (キリスト教・民主・社会同盟) の得票率は 28.5%、(21 年前回選挙 24.2%) で 4.3 ポイント増、AfD (ドイツのための選択枝) は 20.6% (前回 10.4%) とほぼ倍増し、過去最高を記録。

一方 SPD (社会民主党) は 16.4% (同 25.7%) と 3 番手に甘んじ、戦後初めて 20% を割り込んだ。

CDU・CSU は選挙戦で、寛容な難民政策や積極的な温暖化対策の見直しを主張した。



CDU のメルツ党首

メルツ CDU 党首は 23 日夜、勝利を宣言。“欧州に再び存在感を示す”と述べ、次期首相としての指導力発揮に意欲を示した。単独過半数には届かず、早期の政権樹立へ連立交渉を急ぐ考えだ。

そして“重要なのはドイツに再び行動のできる政府をできるだけ早く作ることだ。世界は私たちが待ってはくれない”と述べ、速やかに政権の枠組みを決める連立協議を始めたいという考え方を示した。



ドイツの「極右」AfD、連邦議会で第2党
確実に 総選挙で現地報道 ...

AfD のワイデル共同党首

移民や難民に対して排他的な姿勢を掲げ、極右だとされ、ウクライナ支援にも消極的な AfD(ドイツのための選択肢)のワイデル共同党首は、23日首都ベルリンで、支持者に対し、前回21年の選挙から得票率を倍増させる勢いになっていることについて

“歴史的な結果を成し遂げた。国民の政党としての立場を固めた”と述べ勢力拡大に自信を示した。

与党 SPD (社会民主党) のショルツ首相は、支持者の前で演説し“与党にとり苦い結果だ。この結果の責任は私にある”と述べ敗北を認めた。

CDU・CSU が政権を獲るには連立相手が必要になる。CDU のメルツ氏は AfD との協力を全面的に否定しており、現時点では SPD との“大連立”が有力視される。CDU・CSU と SPD の議席は合わせて過半数は確保したものの、得票率では45%と第二次世界大戦後最低となった。AfD は結党から10年余りで国を揺さぶる台風の目となった。

では CDU のメルツ党首はどんな男であろうか。メルケルに比べ日本でも殆ど知名度がない。メルツ氏は旧西ドイツ出身の弁護士。学生時代に CDU 青年部に参加した。欧州議員を経て1994年、連邦議員に就任。経済通として党内で頭角を現した。2002年の総選挙で CDU・CSU が敗れた後、CDU の党首だったメルケル氏により議員団長の座を譲らされた。メルツ氏はメルケル前首相との主導権争いに敗れ、約10年間政界を離れた苦い経験を持つ。今回の選挙で念願の復活を遂げた。

09年に議員を退任。弁護士として、銀行顧問などを歴任した。18年メルケル氏が、首相退任の意向を表明すると、CDU 党首選に立候補し、政界に戻った。党首選では2度敗れ、21年3度目の出馬で勝利をつかんだ。



犬猿の仲と言われるメルケルとメルツ

閣僚経験は皆無だが、今回の選挙ではビジネスの経験を活かし、低迷するドイツ経済の再建を掲げた。エネルギー価格を引き下げると主張。メルケル政権が11年、福島第一原発の事故を受けて決めた“脱原発”を見直し、小型原子炉の研究を進めるとして、原発復活を視野に入れる。移民対策でも強硬策をとると公約し、寛容な受け入れを主張したメルケル氏との違いを印象付け、CDUの路線を右傾化させた。

今後連立交渉は紆余曲折があり簡単には進まないと思うが、SPDとの二党連立であれば意外と早く進むかもしれない。いずれにせよ新政権の発足は今春の見込みで、現在進みつつあるウクライナ停戦交渉では、ドイツ新首相の席はなく存在感を示せない。

メルツ氏はショルツ氏が否定してきた長距離巡航ミサイル“タウルス”の供与に前向きな反面平和維持部隊の派遣を“考えるのは時期尚早だ”と一線を引く。次期連立政権でSPDが入れば、考え方に差のある軍事支援を巡って紛糾する可能性がある。またAfDなどの極右の台頭はウクライナ支援に逆風をもたらす。23年頃はドイツ国民の40%近くはロシアのウクライナ侵攻に関心を持っていたが、今は4%程度しか国民は関心を持っていない。また気候変動に対してもしかりである。移民問題や経済問題に今や関心が移っている。

欧州最大の経済大国であるドイツは、米国と同様、内向きの姿勢に転じてきた。アメリカファースト、ドイツファースト、と他国のことはどうでもよく目先の自国の問題に為政者は集中しないと、自分たちの立場が危うくなってきているの

が現実になってきている。

連立協議後も政権運営は綱渡りだ。AfD が初めて第2党に浮上し、最大野党になる。総選挙で躍進した旧共産党系の流れをくむ左派党と AfD で合わせて議会全体の3分の1の議席を握る。ドイツで憲法に相当する基本法の改正には議会の3分の2の賛成が必要になる。財政赤字を一定の規模に抑える“債務ブレーキ”は基本法で規定している。厳格な財政ルールの手直しなどを決めるには野党を含めて合意を得なければいけない。



CDU, AfD、SPD の各党首

次の連立政権では長期的に巨額の資金が必要になる。トランプ米政権が求める NATO の国防費負担引き上げや、老朽化する国内のインフラ整備に加え景気

浮揚に向けた経済対策も求められる。メルツ氏は厳格な債務ブレーキの制度見直しに含みを持たせている。首相に就任すれば与野党の調整能力が問われることになる。

P.S 2月14日浜田山から三鷹市に引っ越しました。引っ越し先は健康増進型シニア賃貸レジデンスというところで、老人ホームとは違いますが24時間体制の見守りがあります。ここに移った最大の理由は浜田山のマンションで家内が心筋梗塞で倒れ、偶々ドイツから帰ってきていた娘がいたので辛うじて命が助かりました。今後のこともありボタン一つですぐ職員が飛んでくるので安心だということです。今度の部屋は今までの半分くらいの広さしかありませんのでその中で私のパソコンを置く机のスペースをどのようにするかも悩ましいです。このレジメもベッドの上でパソコンを膝の上に置き打っています。

一方近くに井の頭公園もあり緑が豊かな良い環境で、狭いながら新しい所で生活するのも悪くないと思っています。あと何年生きるか分かりませんが、ここを終の棲家として残りの人生を充実させたいと思っています。

